

1885(明治 18)年～1951(昭和 26)年

1. 経歴・狭山市との関わり



1885(明治 18)年 3 月 25 日、埼玉県入間郡堀金村(現・狭山市堀兼)の室岡伊兵衛の四男として誕生。1892(同 25)年、堀兼村立堀兼尋常高等小学校(現・堀兼小)に入学。1904(同 37)年、川越中学校(現・川越高校)に入学する。そして 1909(同 42)年、東京帝国大学工学部建築学科(現・東京大学)に入学し、和洋の建築学を学んだ。

1913(大正 2)年、司法省(現・法務省)に奉職し、翌年、上野公園で行われた大正博覧会の事務嘱託になる。後に内閣の高等官に任命され、建築技師になった。その後、東京電灯会社(現・東京電力)に入社し、建築技師として設計に携わる。1919(同 8)年、東京市小石川区(現・文京区)本郷に居を構えるが、1927(昭和 2)年、埼玉県北足立郡浦和町(現・さいたま市)に居を移す。その年、東京市神田区神田仲町(現・千代田区外神田)に室岡工務所を開設。建築設計業を営みながら、1945(同 20)年まで各地の建物設計を手掛けた。1951(同 26)年 2 月に逝去。享年 66。

2. 主な業績

① 入間郡豊岡町扇町屋(現・入間市)の実業家石川幾太郎から設計を依頼されると、和風建築の美を堪能できる建物を設計。洋風をベースに和風を取り入れた、和洋折衷の建築である。上棟式当日、棟札に「設計者技師東京室岡惣七 宮大工棟梁関根平蔵 大正十年七月七日」と揮毫。建物は、1923(同 12)年 9 月 1 日に発生した関東大震災にも全く揺らがなかった。2000(平成 12)年 11 月 20 日、国の有形文化財に指定される。

② 1936(昭和 11)年、日興証券の創業者遠山元一の依頼で、埼玉県比企郡川島町白井沼に木造平屋一部 2 階建ての和風邸宅を設計。総監督は遠山芳男で、大工棟梁は中村清次郎である。そして 2 年 7 カ月の歳月を費やし、完成する。「旧遠山家住宅」は、2000(平成 12)年、国の有形文化財に、そして 2018(同 30))年 5 月 18 日、国の重要文化財に指定された。

3. 特筆

晩年になると、学校教育に携わる。1942(昭和 17)年 5 月、埼玉県立川越工業学校(現・埼玉県立川越工業高等学校)に奉職し、1951(同 26)年 2 月まで 9 年間、一般構造と設計製図の講師を務める。惣七は文章を書くことを得意とし、『大石窟旅館高壮館の記』『建築の美的対衡大意』『能率主義』『遠山邸落成所感』『木造建築教本』を著述している。



旧石川組製糸西洋館

〈参考文献〉 『入間市博物館紀要 第 9 号』『いるま歴史ガイド 西洋館をつくった人』他。